

本市の人口動態について

亀山市

政策部 政策推進課

目次

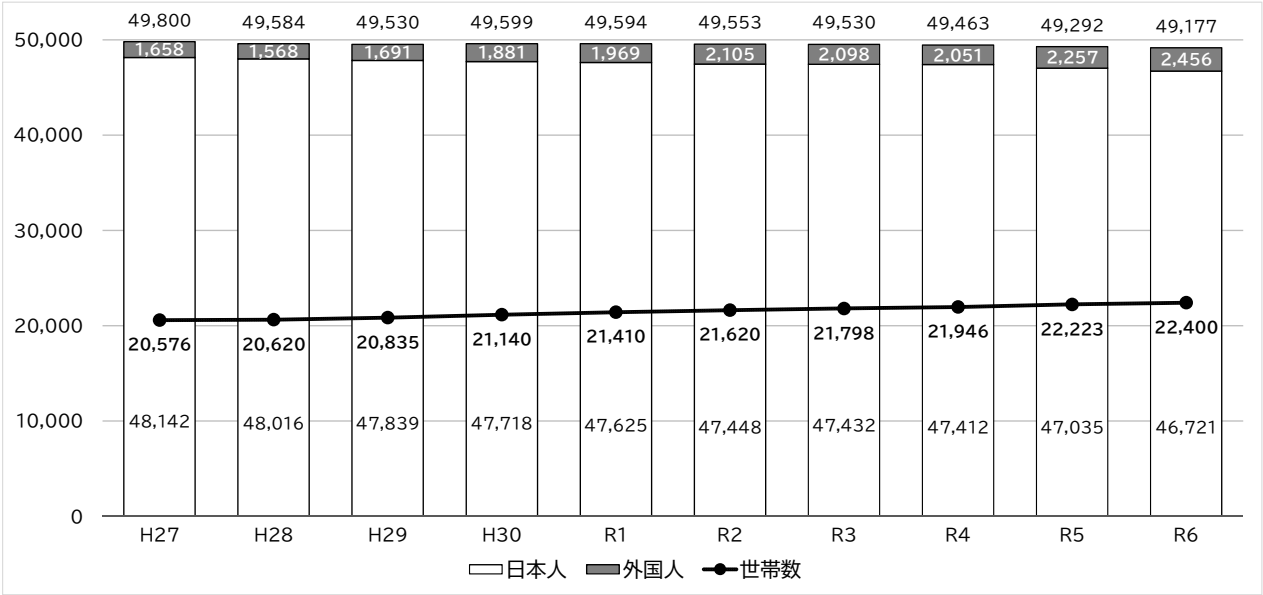
人口推移	1
人口推移（増減）	1
人口（年齢別）	2
人口比率	2
自然増減数	3
自然増減数（日本人）	3
自然増減数（外国人）	4
社会増減数	4
社会増減数（日本人）	5
社会増減数（外国人）	5
合計特殊出生率	6
未婚率	6
総人口の推移	7
地区別人口の推移	8
地区別人口比率	8
地区別人口マップ	9
小学校区別人口の推移	10
小学校区別人口比率	10
小学校区別人口マップ	11
主要な転入元（日本人）	12
主要な転入元（外国人）	12
主要な転出先（日本人）	13
主要な転出先（外国人）	13
着工住宅数（総計）と転入者数	14
着工住宅数（総計）	14
着工住宅数（新設）	15
着工住宅数（増改築）	15
年齢階級別の人口移動の推移（総数）	16
年齢階級別の人口移動の推移（日本人）	17
年齢階級別の人口移動の推移（外国人）	18
人口ピラミッドの推移	19

人口推移等基礎データ

■人口推移

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
総人口	50,211	50,001	49,661	49,914	49,800	49,584	49,530	49,599	49,594	49,553	49,530	49,463	49,292	49,177
日本人	47,752	47,963	48,120	48,257	48,142	48,016	47,839	47,718	47,625	47,448	47,432	47,412	47,035	46,721
外国人	2,459	2,038	1,541	1,657	1,658	1,568	1,691	1,881	1,969	2,105	2,098	2,051	2,257	2,456
世帯数	20,168	20,294	20,021	20,400	20,576	20,620	20,835	21,140	21,410	21,620	21,798	21,946	22,223	22,400

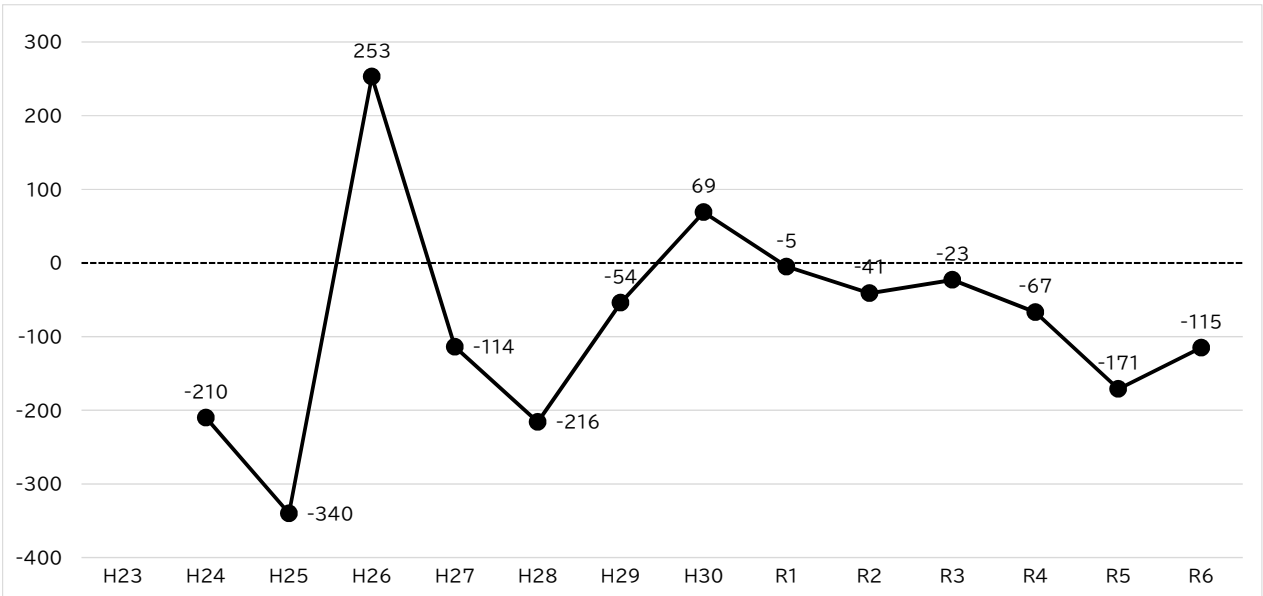
出典：住民基本台帳（各年4月1日）



■人口推移（増減）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
増減		-210	-340	253	-114	-216	-54	69	-5	-41	-23	-67	-171	-115

出典：住民基本台帳（各年4月1日）

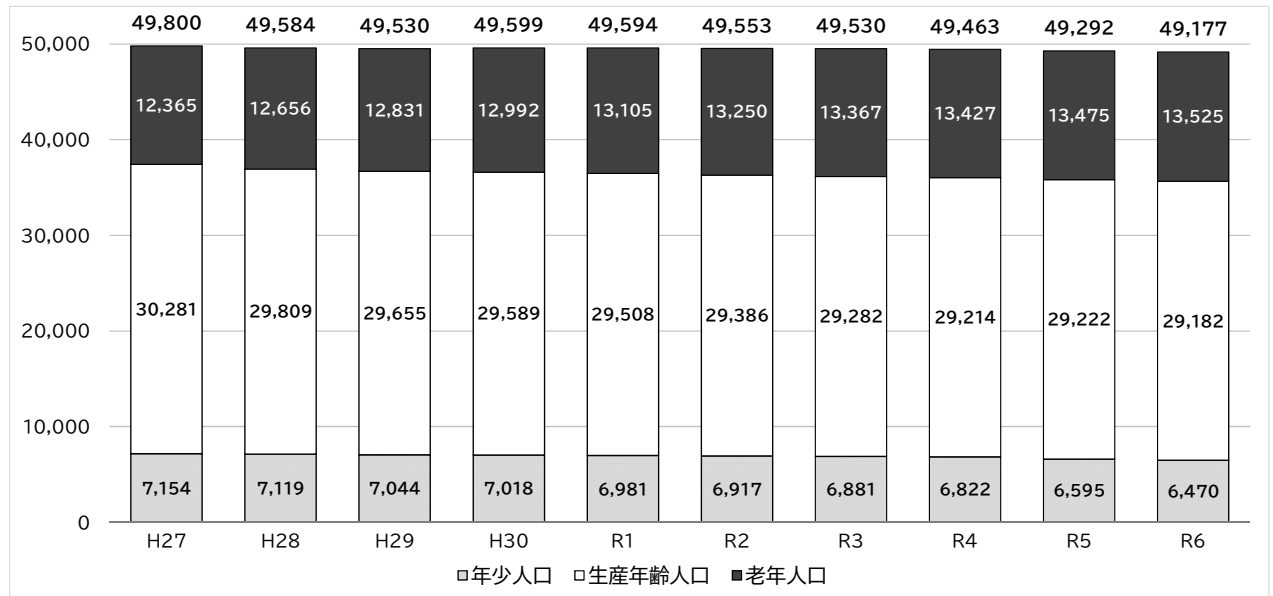


本市の総人口は、平成28年以降概ね横ばいで推移していますが、令和元年以降は減少が続いており、近年は減少幅の拡大傾向がみられます。一方、世帯数は増加傾向にあり、人口減少と併せて平均世帯人員が減少していることが分かります。また、外国人人口については、増加傾向が続く中、コロナ禍の影響等により令和3年・4年では一旦減少したものの、令和5年度以降は、その増加幅が大きくなっています。

■人口（年齢別）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
総人口	50,211	50,001	49,661	49,914	49,800	49,584	49,530	49,599	49,594	49,553	49,530	49,463	49,292	49,177
年少人口	7,025	7,038	7,106	7,136	7,154	7,119	7,044	7,018	6,981	6,917	6,881	6,822	6,595	6,470
生産年齢人口	32,193	31,814	30,953	30,720	30,281	29,809	29,655	29,589	29,508	29,386	29,282	29,214	29,222	29,182
老年人口	10,993	11,149	11,602	12,058	12,365	12,656	12,831	12,992	13,105	13,250	13,367	13,427	13,475	13,525

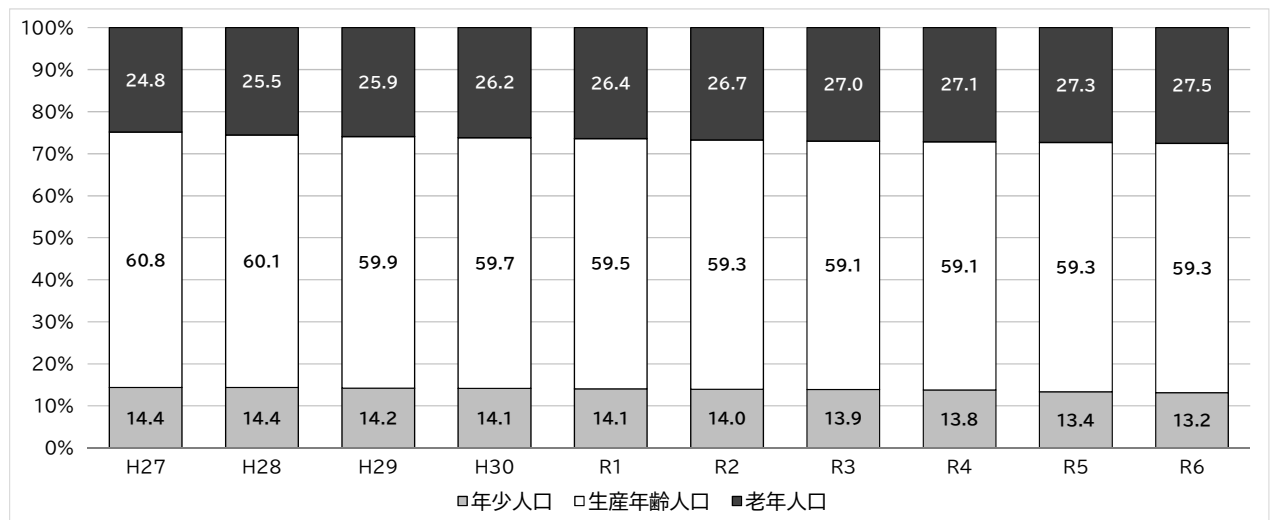
出典：住民基本台帳（各年4月1日）



■人口比率

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
年少人口	14.0	14.1	14.3	14.3	14.4	14.4	14.2	14.1	14.1	14.0	13.9	13.8	13.4	13.2
生産年齢人口	64.1	63.6	62.3	61.5	60.8	60.1	59.9	59.7	59.5	59.3	59.1	59.1	59.3	59.3
老年人口	21.9	22.3	23.4	24.2	24.8	25.5	25.9	26.2	26.4	26.7	27.0	27.1	27.3	27.5

出典：住民基本台帳（各年4月1日）

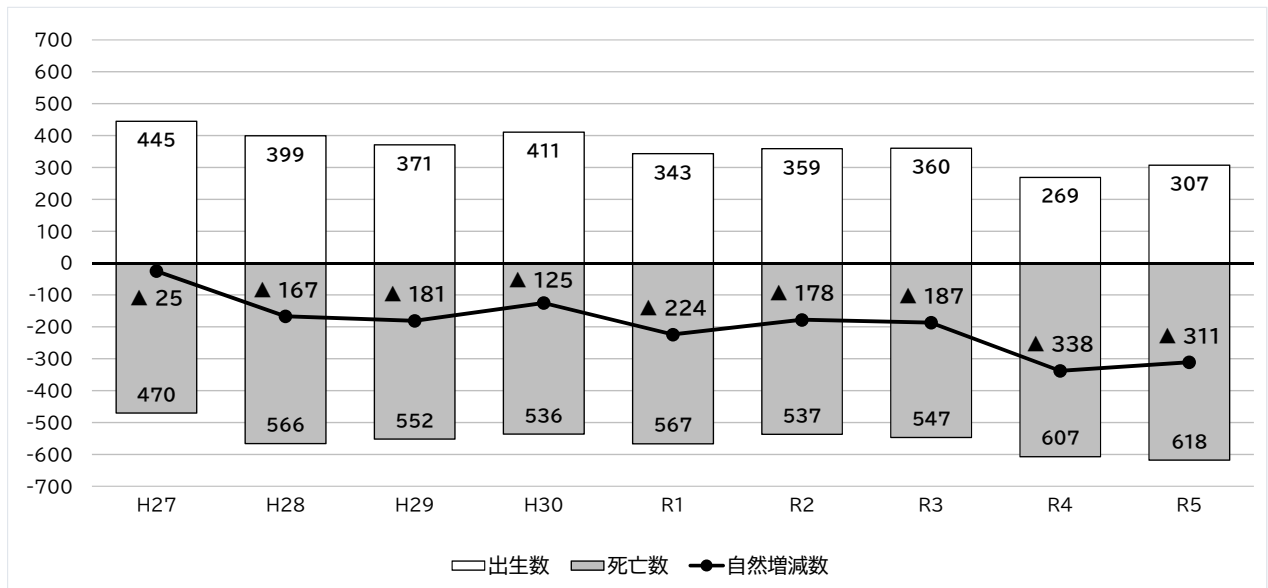


本市の人口構成は、老年人口比率が緩やかに増加傾向にあり、その一方で年少人口比率は減少傾向にあります。生産年齢人口比率は、令和2年度以降ほぼ横ばいで推移しています。

■自然増減数

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
出生数	437	449	470	464	445	399	371	411	343	359	360	269	307
死亡数	507	493	482	513	470	566	552	536	567	537	547	607	618
自然増減数	▲ 70	▲ 44	▲ 12	▲ 49	▲ 25	▲ 167	▲ 181	▲ 125	▲ 224	▲ 178	▲ 187	▲ 338	▲ 311

出典：住民基本台帳（各年度）



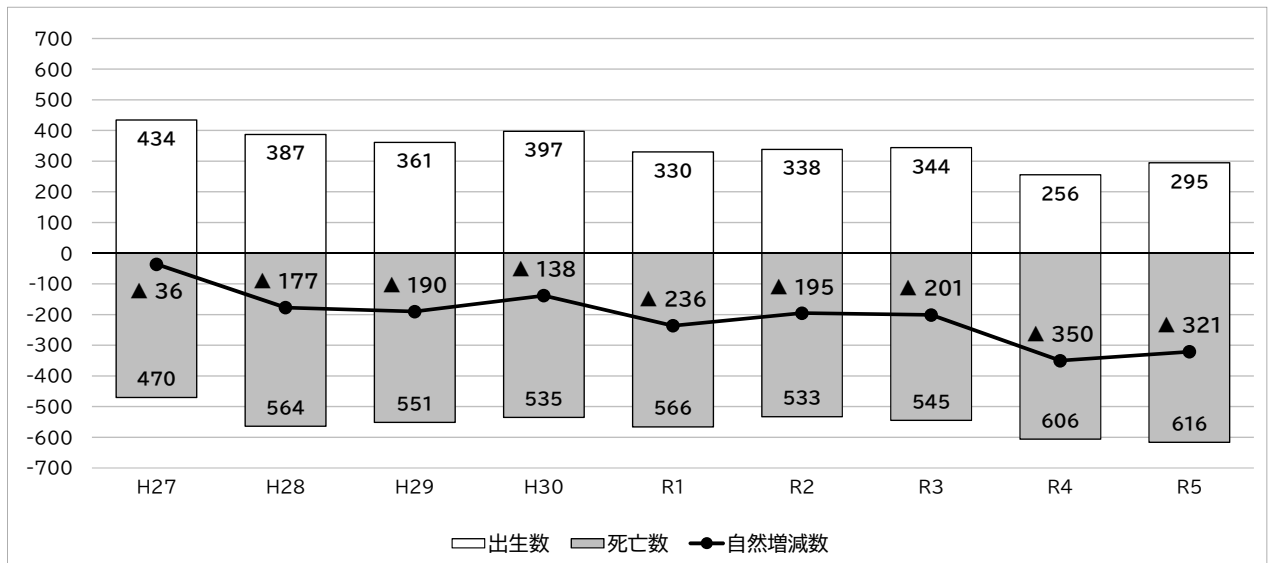
本市の自然増減については、少子高齢化の進展により、死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いており、特に令和4年度には出生数が大きく減少し、マイナス幅が拡大しました。出生数については、令和4年度に大きく減少したものの、その翌年度（令和5年度）には増加に転じてましたが、死亡数もやや増加しており、300人以上の自然減が続いています。

■自然増減数（日本人）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
出生数	424	442	453	449	434	387	361	397	330	338	344	256	295
死亡数	505	492	481	510	470	564	551	535	566	533	545	606	616
自然増減数	▲ 81	▲ 50	▲ 28	▲ 61	▲ 36	▲ 177	▲ 190	▲ 138	▲ 236	▲ 195	▲ 201	▲ 350	▲ 321

※H23・24 事務処理誤差あり。

出典：住民基本台帳（各年度）



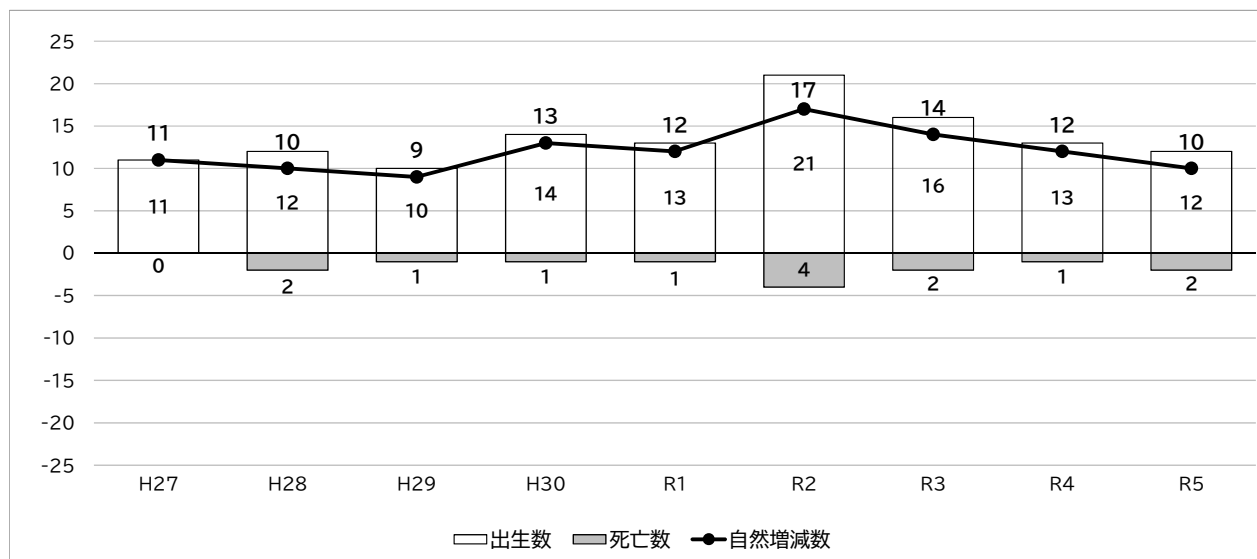
本市の総人口の約95%を日本人が占めており、日本人の自然増減の傾向については、全体の傾向とほぼ同様となっています。令和5年度には出生数が増加に転じたものの、死亡数も増加しており、マイナス幅の大きな改善には至っていません。

■自然増減数（外国人）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
出生数	13	7	17	15	11	12	10	14	13	21	16	13	12
死亡数	2	1	1	3	0	2	1	1	1	4	2	1	2
自然増減数	11	6	16	12	11	10	9	13	12	17	14	12	10

※H23・24 事務処理誤差あり。

出典：住民基本台帳（各年度）



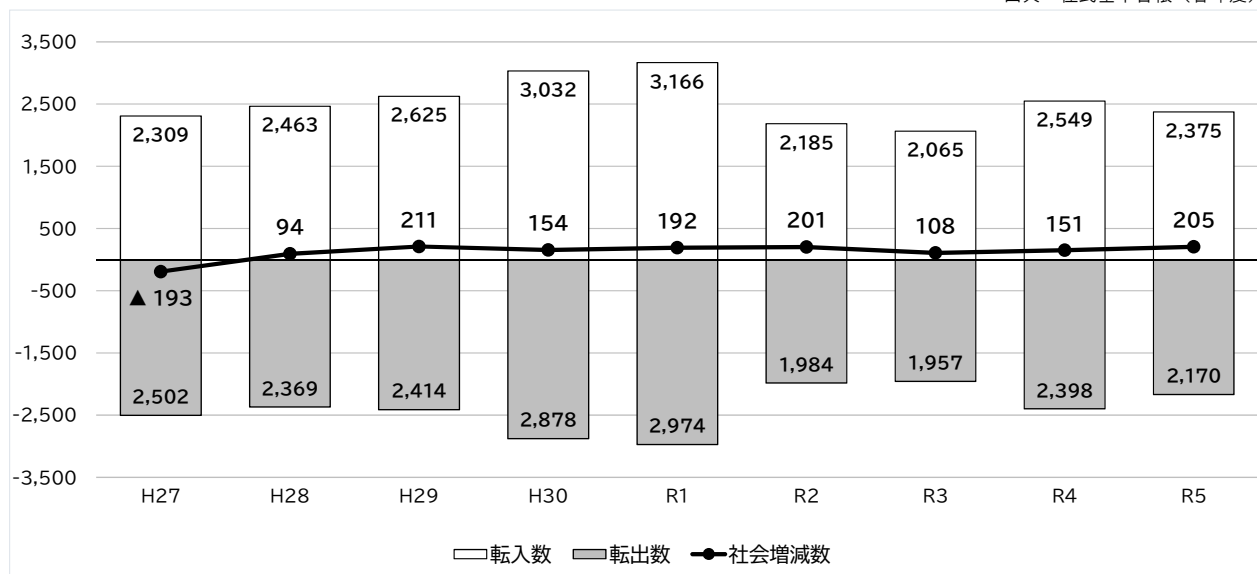
本市の自然増減のうち、外国人については、人口全体に占める割合は低いものの、プラスで推移しています。

■社会増減数

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
転入数	2,767	2,532	2,566	2,445	2,309	2,463	2,625	3,032	3,166	2,185	2,065	2,549	2,375
転出数	2,907	2,823	2,289	2,474	2,502	2,369	2,414	2,878	2,974	1,984	1,957	2,398	2,170
社会増減数	▲ 140	▲ 291	277	▲ 29	▲ 193	94	211	154	192	201	108	151	205

平均165人

出典：住民基本台帳（各年度）

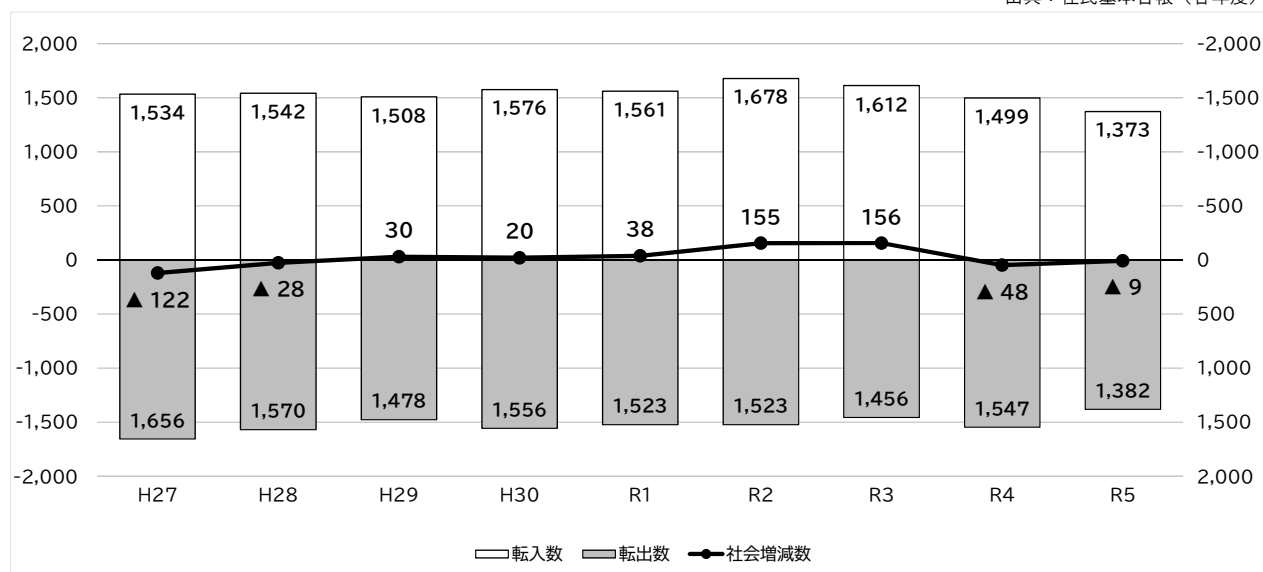


本市の社会増減は、転入者数・転出者数ともに年度間の差はあるものの、平成28年度以降は社会増の状態が続いており、年度平均165人程度の転入超過が続いています。令和2年度・3年度においては、コロナ禍の影響もあり転入・転出ともに大きく減少しましたが、令和4年度には増加に転じています。

■社会増減数（日本人）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
転入数	1,968	2,211	1,802	1,576	1,534	1,542	1,508	1,576	1,561	1,678	1,612	1,499	1,373
転出数	1,676	2,286	1,661	1,648	1,656	1,570	1,478	1,556	1,523	1,523	1,456	1,547	1,382
社会増減数	292	▲ 75	141	▲ 72	▲ 122	▲ 28	30	20	38	155	156	▲ 48	▲ 9

出典：住民基本台帳（各年度）

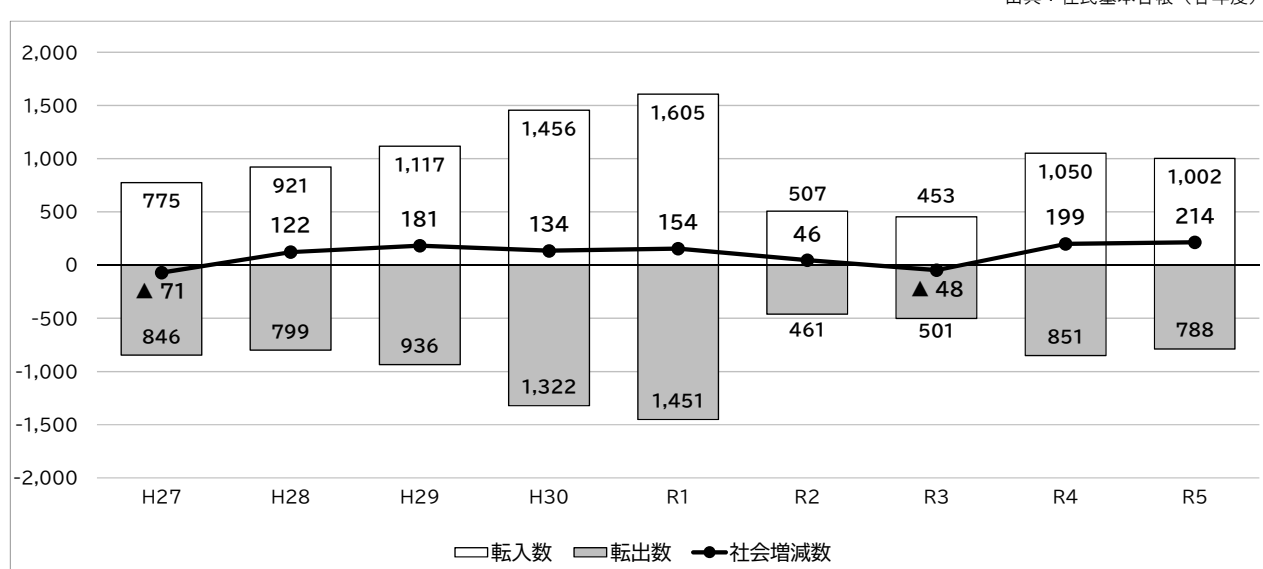


本市の社会増減のうち、日本人については、平成29年度以降転入超過が続いていましたが、令和4年度に転出超過に転じており、令和5年度においても転出超過が続いています。

■社会増減数（外国人）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
転入数	799	321	764	869	775	921	1,117	1,456	1,605	507	453	1,050	1,002
転出数	1,231	537	628	826	846	799	936	1,322	1,451	461	501	851	788
社会増減数	▲ 432	▲ 216	136	43	▲ 71	122	181	134	154	46	▲ 48	199	214

出典：住民基本台帳（各年度）

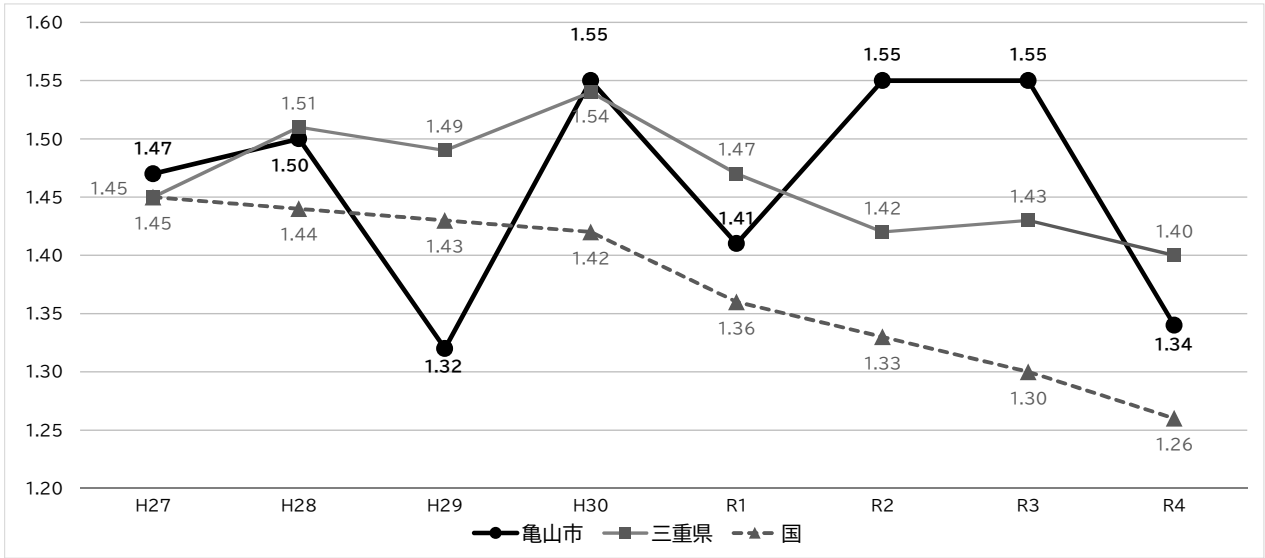


本市の社会増減のうち、外国人については、平成28年度以降、令和3年度を除いて転入超過が続いており、令和5年度においては200人を超える転入超過となりました。令和2年度・3年度においては、コロナ禍の影響もあり転入・転出ともに大きく減少し、特に令和3年度にはマイナスの社会減の状態となりましたが、令和4年度には増加に転じ、その傾向が続いています。

■合計特殊出生率

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	H27以降平均
亀山市	1.39	1.56	1.58	1.63	1.47	1.50	1.32	1.55	1.41	1.55	1.55	1.34	1.46
三重県	1.47	1.47	1.49	1.56	1.45	1.51	1.49	1.54	1.47	1.42	1.43	1.40	1.46
国	1.39	1.41	1.43	1.42	1.45	1.44	1.43	1.42	1.36	1.33	1.30	1.26	1.37

出典：人口動態調査



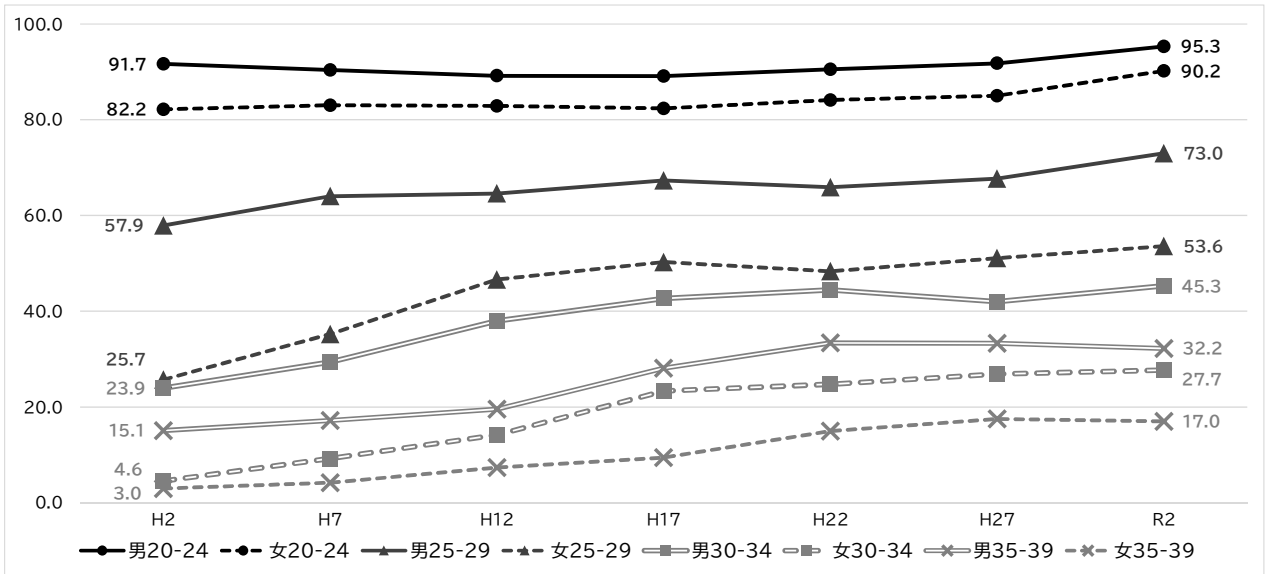
本市の合計特殊出生率は、近年は横ばい傾向で推移してきましたが、令和4年度は1.34となっており、前年度から0.21ポイント低下しました。平成27年度以降の本市の平均は1.46となっており、三重県とは同水準にあり、国の水準は上回っています。一方、国全体で見ると、平成27年度は国・県・市ともほぼ同水準であったものが、平成28年度以降は低下傾向が続いています。

■未婚率

	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2	H22との差
男20-24	91.7	90.4	89.2	89.1	90.6	91.8	95.3	3.63
女20-24	82.2	83.0	82.9	82.4	84.1	85.0	90.2	8.02
男25-29	57.9	64.1	64.6	67.3	65.9	67.7	73.0	15.08
女25-29	25.7	35.2	46.6	50.3	48.4	51.1	53.6	27.90
男30-34	23.9	29.4	38.0	42.7	44.5	42.0	45.3	21.35
女30-34	4.6	9.2	14.2	23.3	24.7	26.9	27.7	23.15
男35-39	15.1	17.2	19.5	28.1	33.4	33.3	32.2	17.13
女35-39	3.0	4.2	7.3	9.4	15.0	17.5	17.0	14.03

出典：国勢調査

本市の未婚率は、平成2年度と比較すると、全ての世代で上昇しています。特に、男女ともに25歳から34歳までの世代は、平均20ポイント以上の上昇となっており、晩婚化傾向が強まっています。我が国では、婚外子の割合が諸外国と比較して低い（R2：2.4%）ことから、晩婚化の進展は、少子化の要因のひとつであると考えられます。

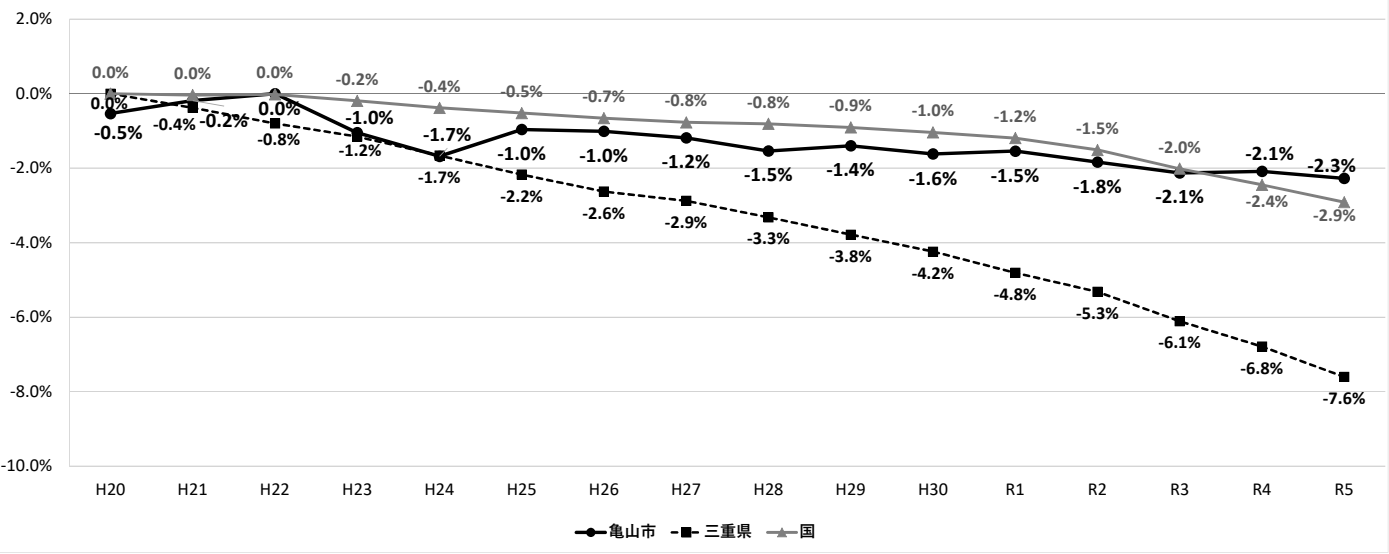


■総人口の推移（国・三重県・亀山市、着色年度は総人口のピーク）

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
亀山市	50,233	50,409	50,503	49,974	49,653	50,017	49,992	49,903	49,726	49,795	49,684	49,723	49,574	49,428	49,449	49,353
	-0.5%	-0.2%	0.0%	-1.0%	-1.7%	-1.0%	-1.0%	-1.2%	-1.5%	-1.4%	-1.6%	-1.5%	-1.8%	-2.1%	-2.1%	-2.3%
三重県	1,869,669	1,862,575	1,854,724	1,848,107	1,838,611	1,829,063	1,820,491	1,815,865	1,807,611	1,798,886	1,790,376	1,779,770	1,770,254	1,755,415	1,742,703	1,727,503
	0.0%	-0.4%	-0.8%	-1.2%	-1.7%	-2.2%	-2.6%	-2.9%	-3.3%	-3.8%	-4.2%	-4.8%	-5.3%	-6.1%	-6.8%	-7.6%
国	128,084,000	128,032,000	128,057,000	127,834,000	127,593,000	127,414,000	127,237,000	127,095,000	127,042,000	126,919,000	126,749,000	126,555,000	126,146,000	125,502,000	124,947,000	124,352,000
	0.0%	0.0%	0.0%	-0.2%	-0.4%	-0.5%	-0.7%	-0.8%	-0.8%	-0.9%	-1.0%	-1.2%	-1.5%	-2.0%	-2.4%	-2.9%

※上段は総人口、下段はピーク人口に対する減少率

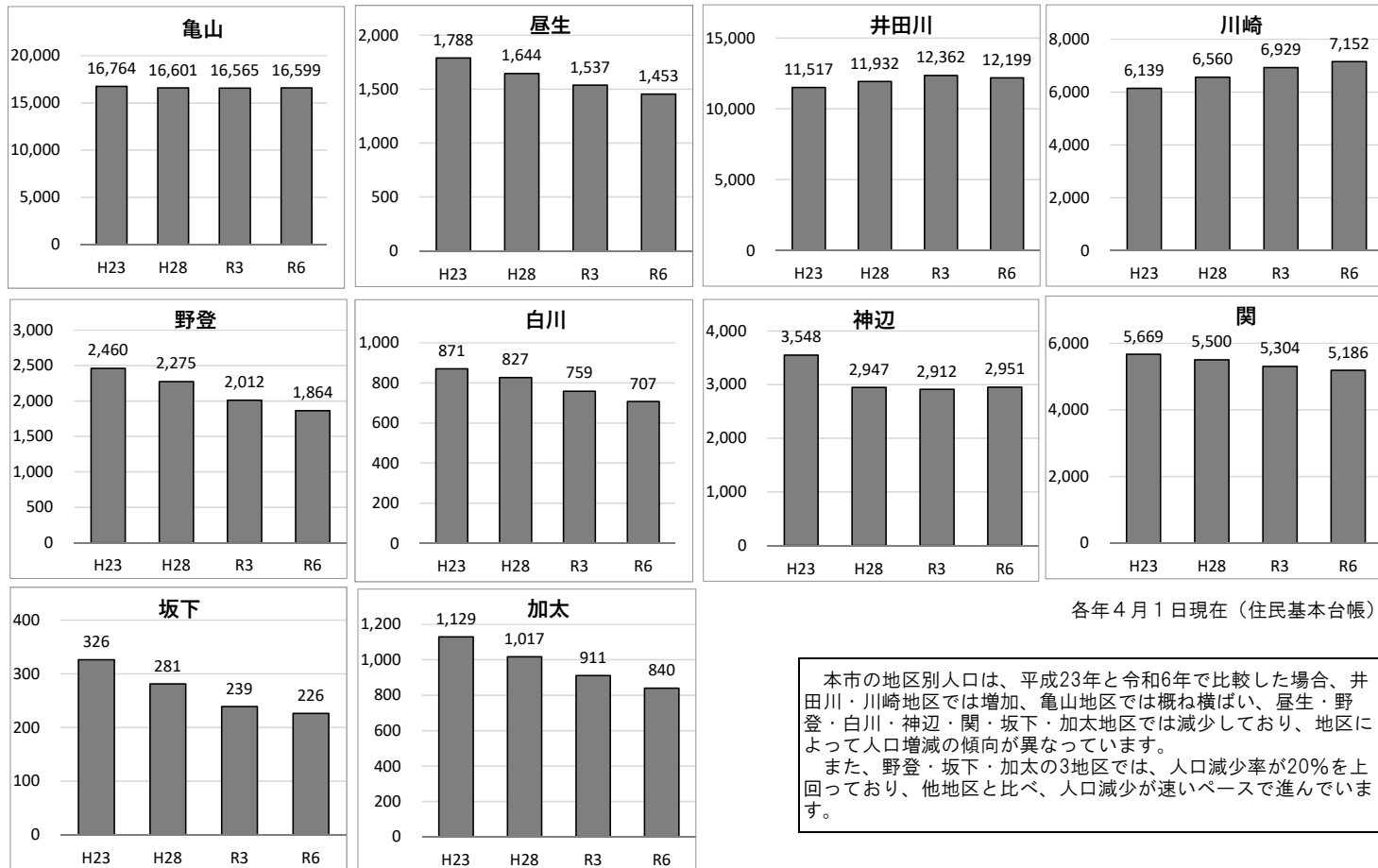
（ピーク人口に対する各年度の人口減少率）



	ピーク人口	R5人口	増減	減少率
国	128,084,000	124,352,000	-3,732,000	-2.9%
県	1,869,669	1,727,503	-142,166	-7.6%
市	50,503	49,353	-1,150	-2.3%

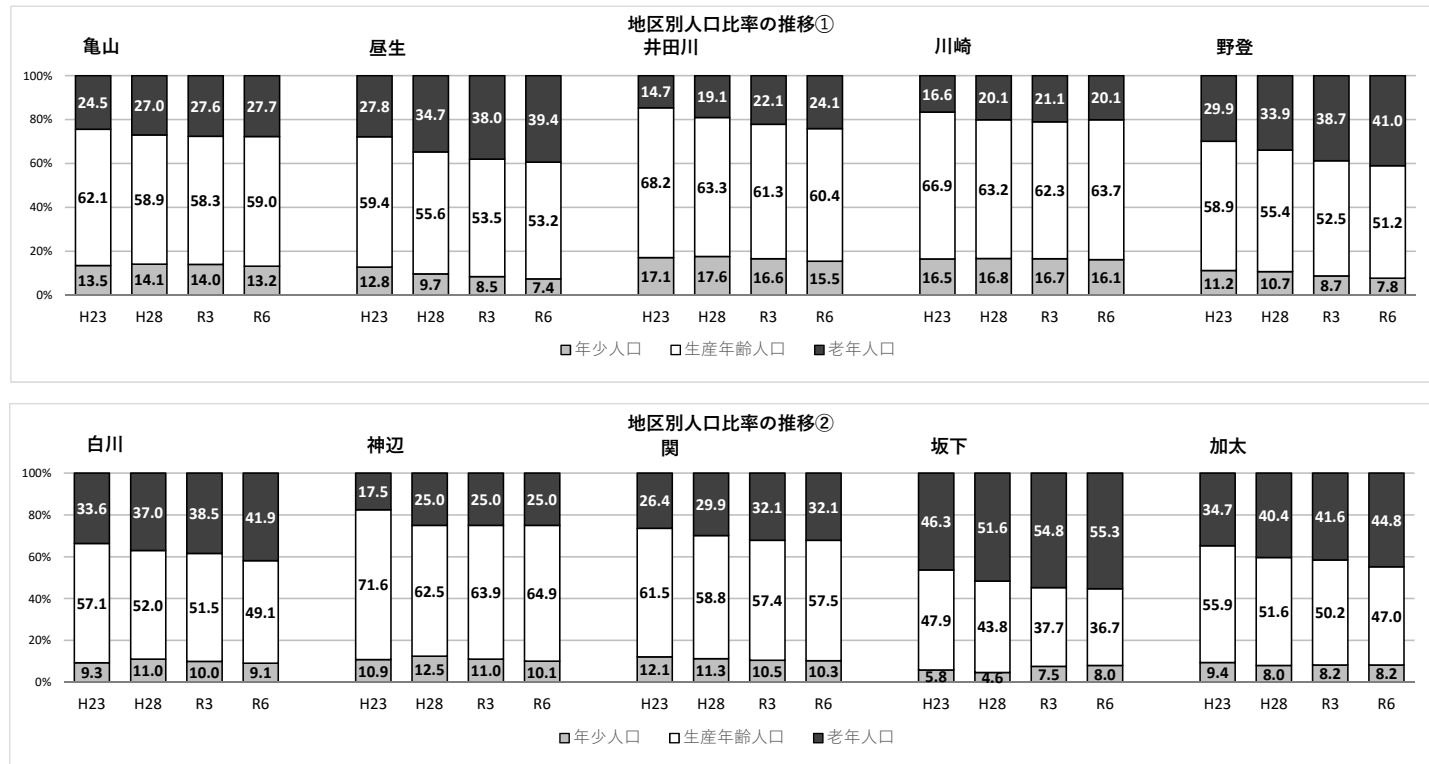
国・三重県・亀山市のピーク人口（国・県は平成20年度、本市は平成22年度）から令和5年にかけての人口増減率を比較すると、国-2.9%・県-7.6%、市-2.3%となっています。人口減少は続いているものの、国・県と比較すると、本市の人口減少は緩やかに進行していることが分かります。

■地区別人口



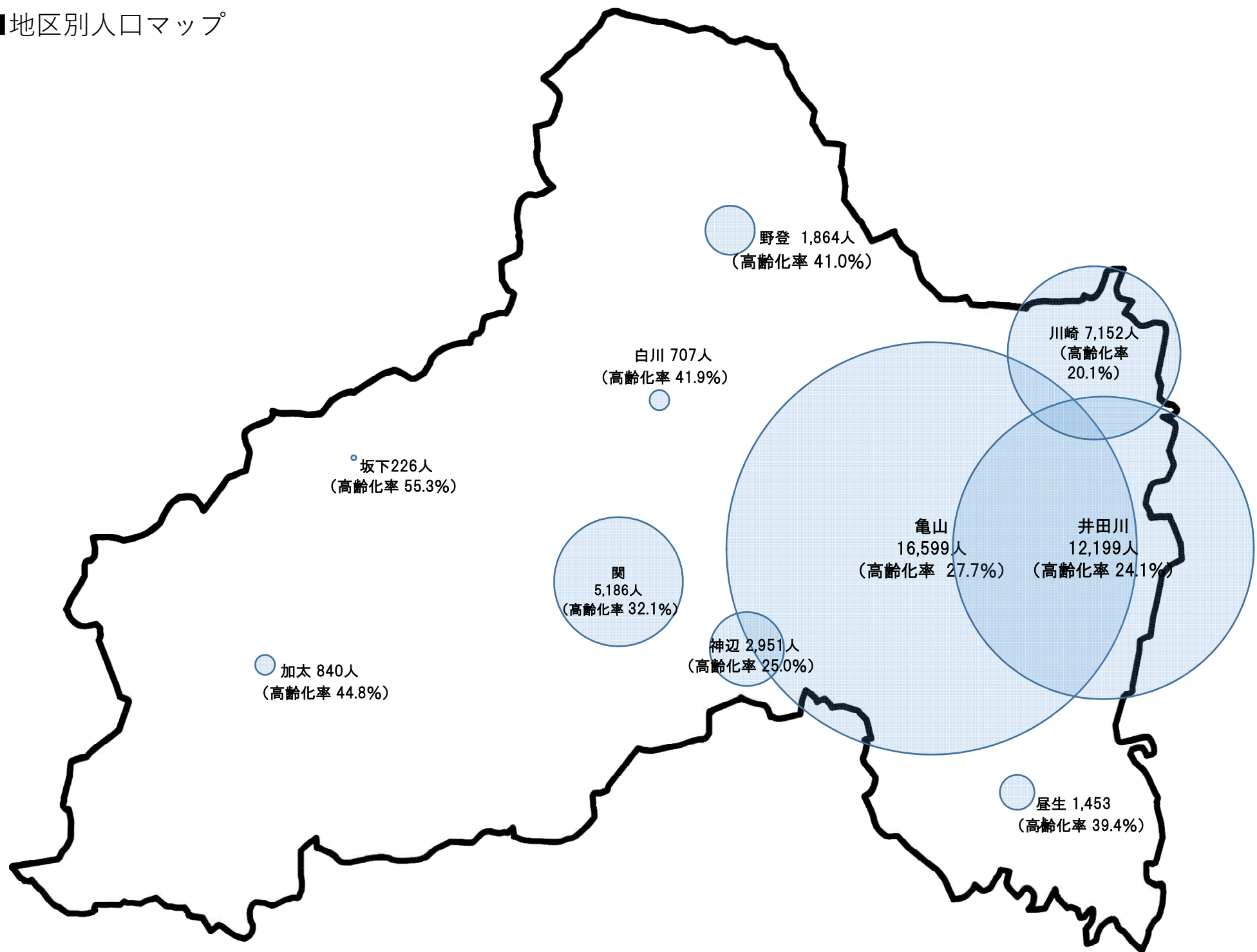
■地区別人口比率

（参考：R5 本市全体）年少人口 13.4% 生産年齢人口 59.3% 老年人口 27.3%

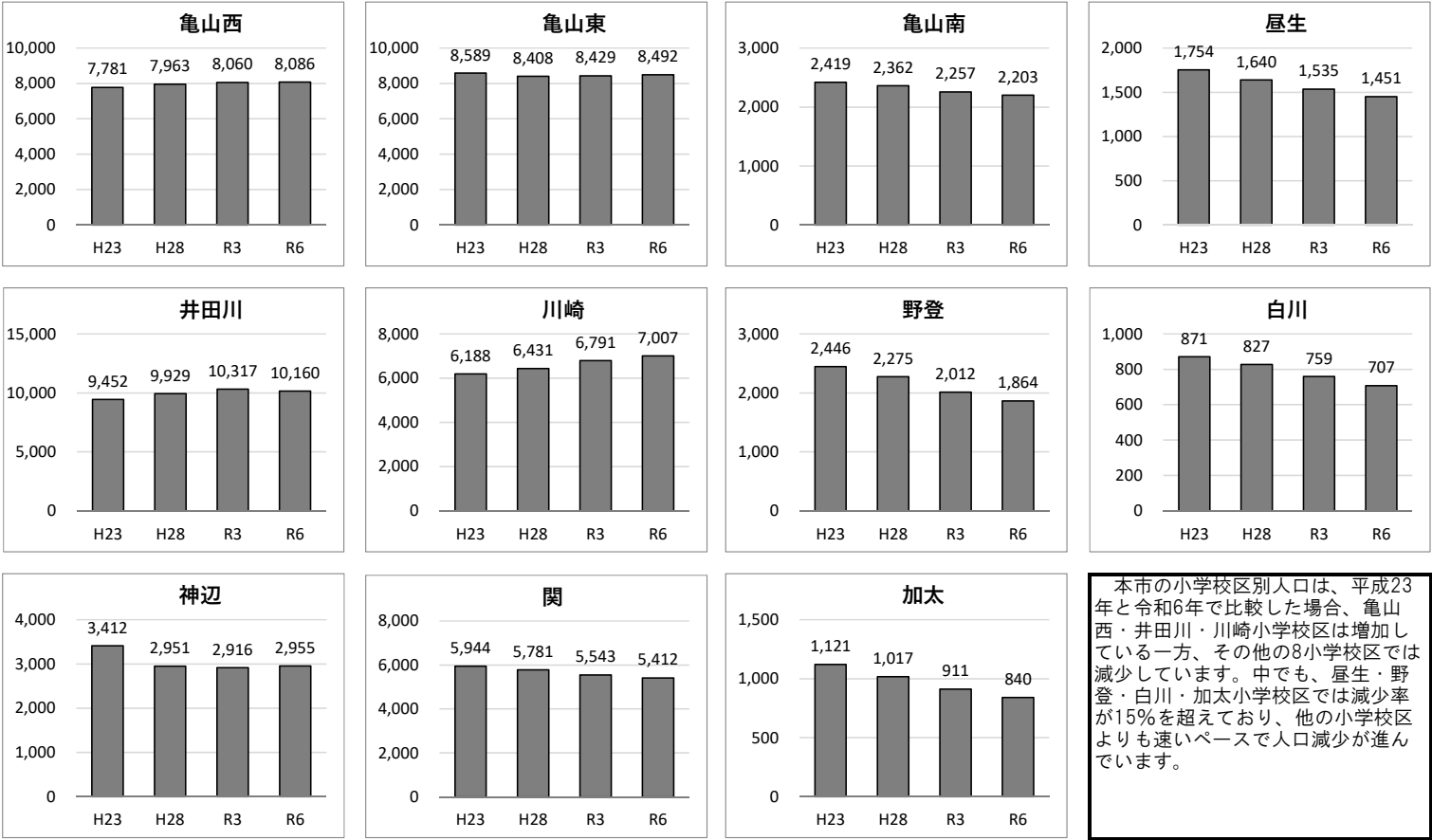


本市の地区別人口比率（令和6年）について、年少人口は、亀山・井田川・川崎地区、生産年齢人口は、井田川・川崎・神辺地区において本市全体の平均を上回っています。地区によって人口比率に差が生じており、年少人口の比率が低い地区では人口減少が早いペースで進んでいる傾向が見て取れます。

■地区別人口マップ



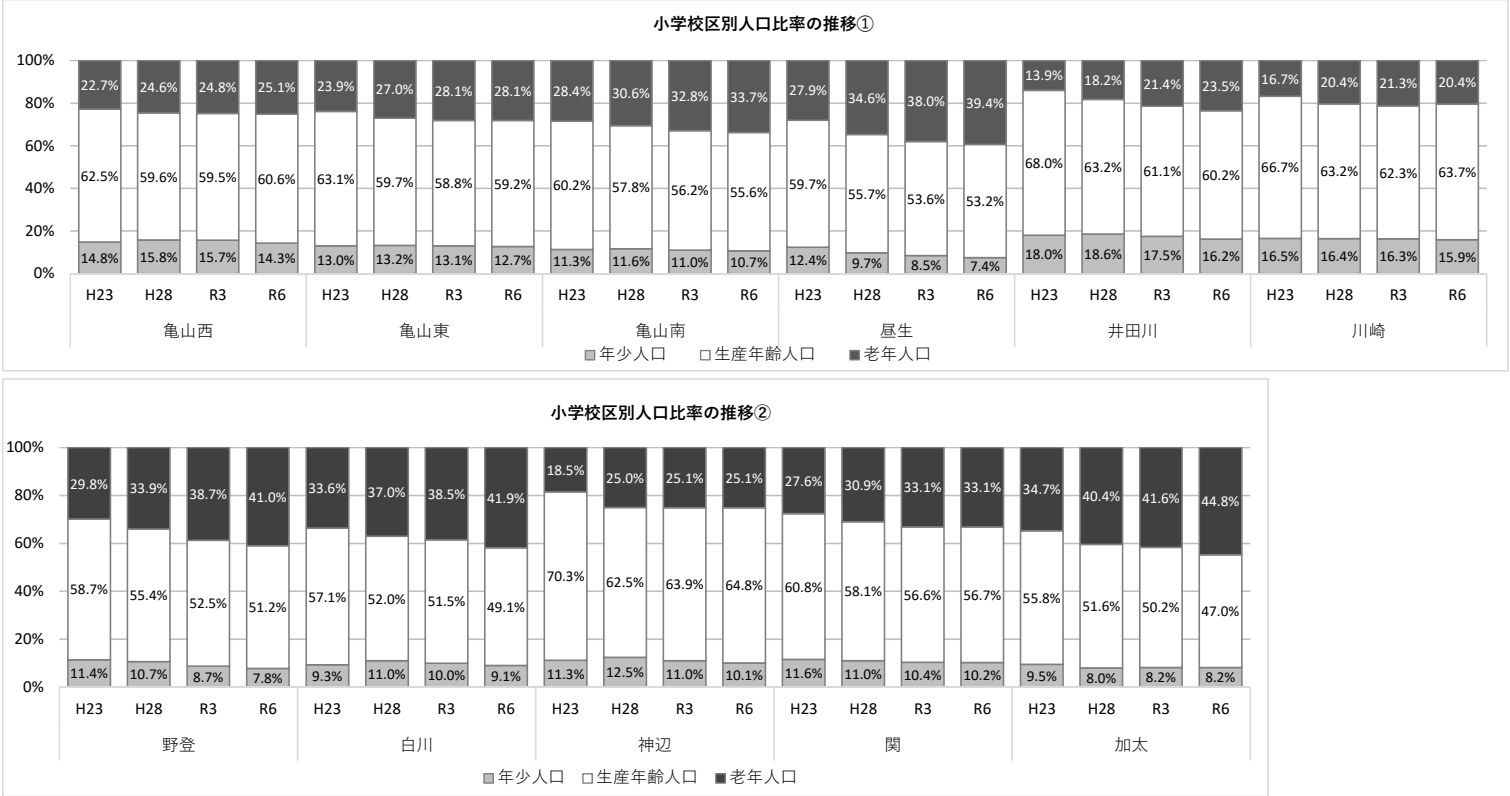
■小学校区別人口の推移



・各年4月1日現在（住民基本台帳）※平成23年は10月1日（H23.9以前は集計方法が異なるため）※システム集計のため合計が総人口と一致しない場合があります。

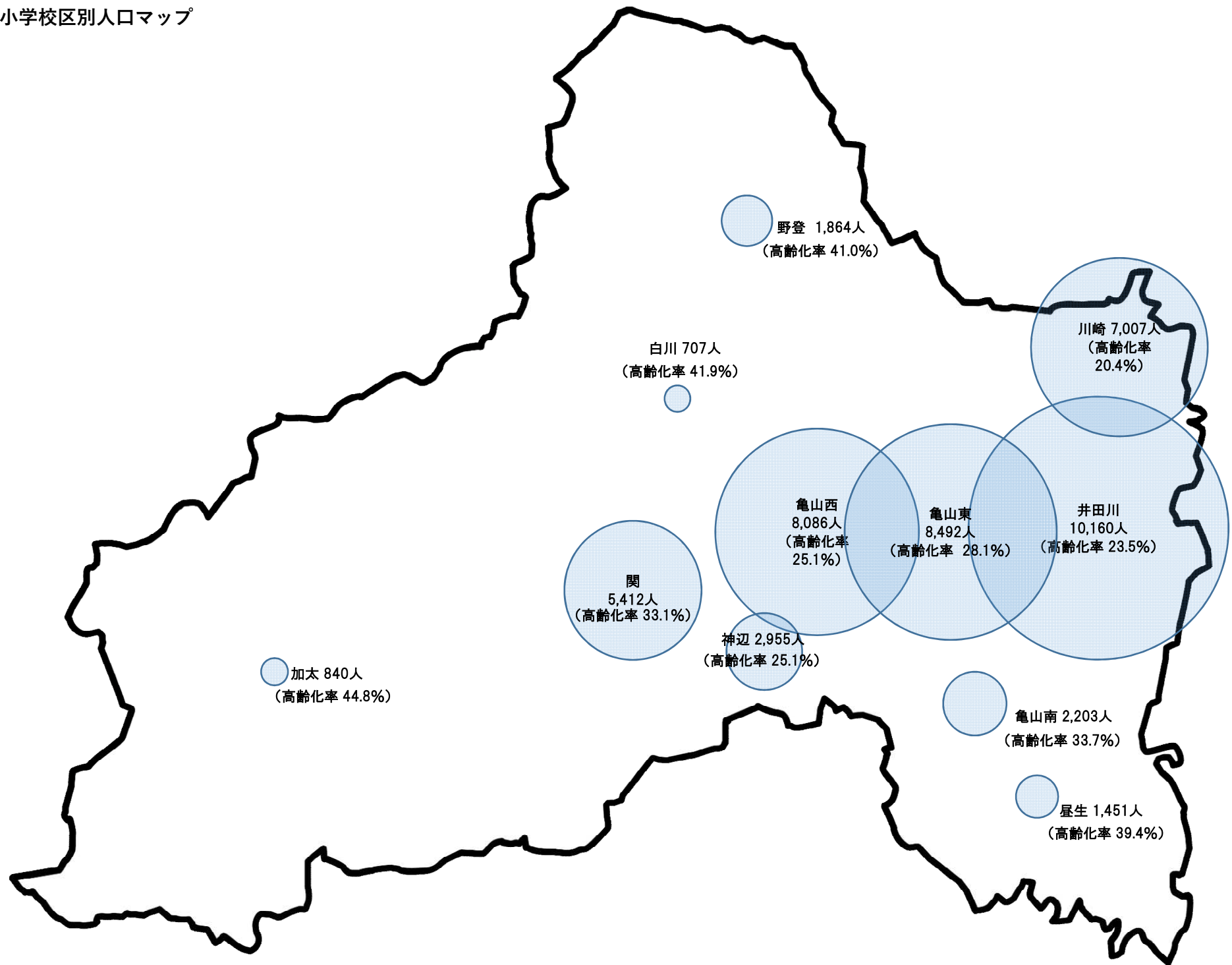
■小学校区別人口比率

（参考：R6 本市全体）年少人口 13.2% 生産年齢人口 59.3% 老年人口 27.5%



本市の小学校区別人口比率（令和6年4月1日）について、年少人口は、亀山西・井田川・川崎の3小学校区、生産年齢人口は、亀山西・井田川・川崎・神辺小学校区において本市全体の平均を上回っています。一方、老年人口は、亀山東・亀山南・昼生・野登・白川・関・加太小学校区で本市全体の平均を上回っており、小学校区によって差異が生じています。

■小学校区別人口マップ

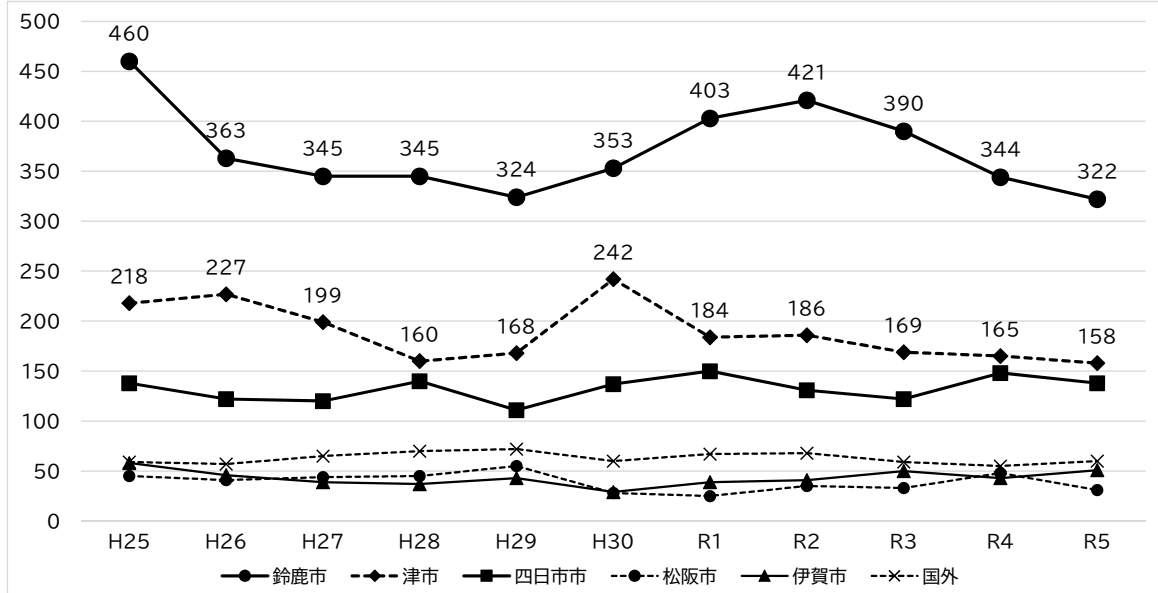


■主要な転入元（日本人）

（人）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
鈴鹿市	460	363	345	345	324	353	403	421	390	344	322
津市	218	227	199	160	168	242	184	186	169	165	158
四日市市	138	122	120	140	111	137	150	131	122	148	138
松阪市	45	41	44	45	55	28	25	35	33	48	31
伊賀市	58	46	39	37	43	29	39	41	50	43	51
桑名市	12	20	15	21	21	15	21	23	28	29	15
国外	59	57	65	70	72	60	67	68	59	55	60

出典：住民基本台帳（年度）



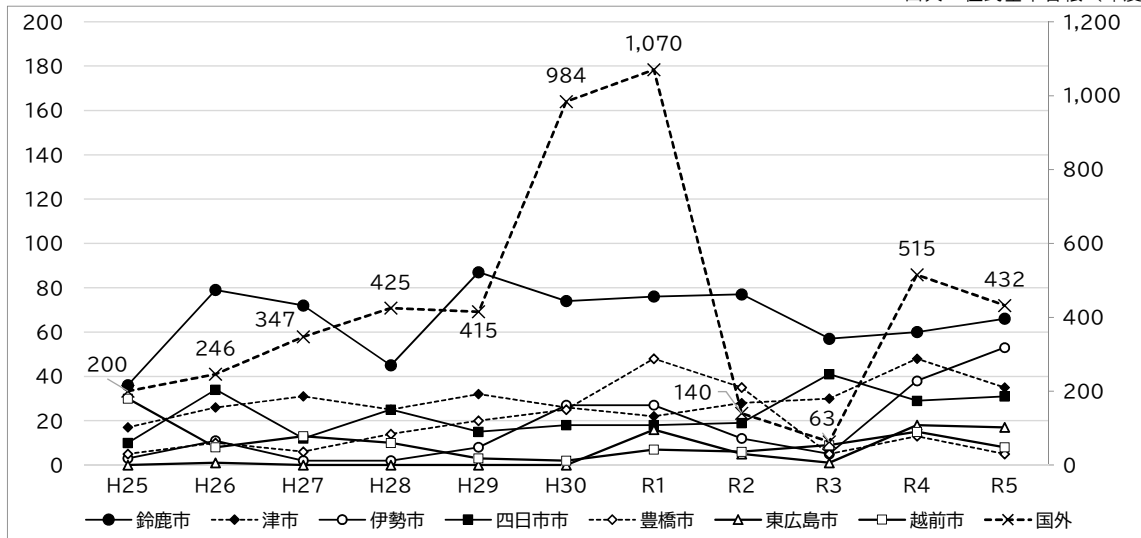
本市への主要な転入元（日本人）は、県内近隣市が多くを占めており、特に鈴鹿市・津市・四日市市からの転入が多い状態で推移しています。

■主要な転入元（外国人）

（人）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
国外	200	246	347	425	415	984	1,070	140	63	515	432
鈴鹿市	36	79	72	45	87	74	76	77	57	60	66
津市	17	26	31	25	32	26	22	28	30	48	35
伊勢市	3	11	2	2	8	27	27	12	5	38	53
四日市市	10	34	12	25	15	18	18	19	41	29	31
豊橋市	5	10	6	14	20	25	48	35	5	13	5
東広島市	0	1	0	0	0	0	16	5	1	18	17
越前市	30	8	13	10	3	2	7	6	9	15	8

出典：住民基本台帳（年度）



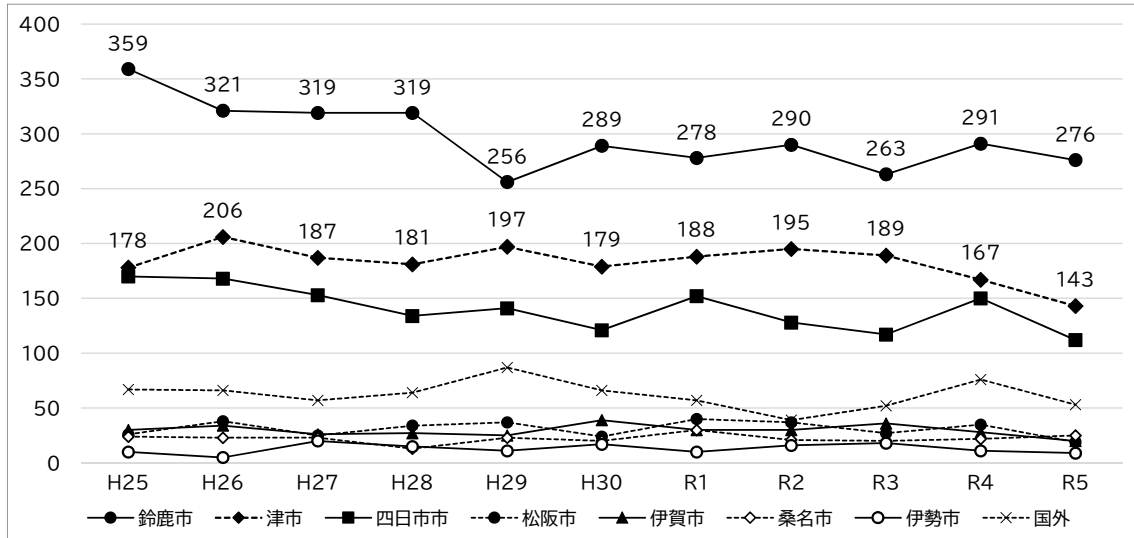
本市への主要な転入元（外国人）は、国外が多くを占めるほか、県内近隣市からの転入が一定程度を占める状態で推移しています。また、国外からの転入も、転入元には変動があるものの継続しています。

■主要な転出先（日本人）

（人）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
鈴鹿市	359	321	319	319	256	289	278	290	263	291	276
津市	178	206	187	181	197	179	188	195	189	167	143
四日市市	170	168	153	134	141	121	152	128	117	150	112
松阪市	26	38	25	34	37	24	40	37	27	35	19
伊賀市	30	34	26	27	25	39	30	30	36	28	20
桑名市	24	23	23	13	23	20	30	21	20	22	25
伊勢市	10	5	20	15	11	17	10	16	18	11	9
国外	67	66	57	64	87	66	57	39	52	76	53

出典：住民基本台帳（年度）



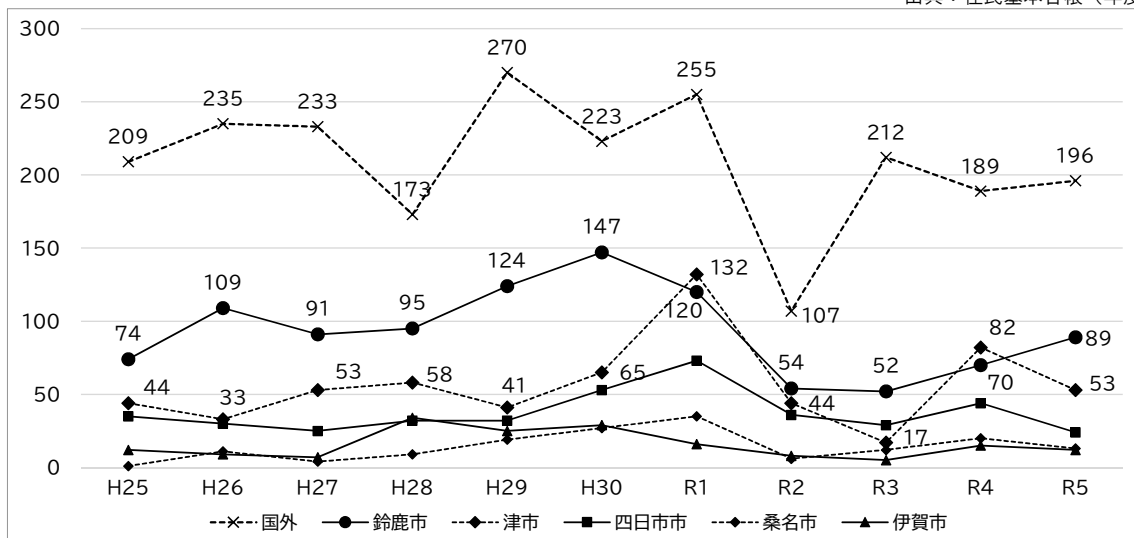
本市からの主要な転出先（日本人）は、県内近隣市が多くを占めており、特に鈴鹿市・津市・四日市市への転出が多い状態で推移しています。

■主要な転出先（外国人）

（人）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
国外	209	235	233	173	270	223	255	107	212	189	196
鈴鹿市	74	109	91	95	124	147	120	54	52	70	89
津市	44	33	53	58	41	65	132	44	17	82	53
四日市市	35	30	25	32	32	53	73	36	29	44	24
桑名市	1	11	4	9	19	27	35	6	12	20	13
伊賀市	12	9	7	34	25	29	16	8	5	15	12

出典：住民基本台帳（年度）

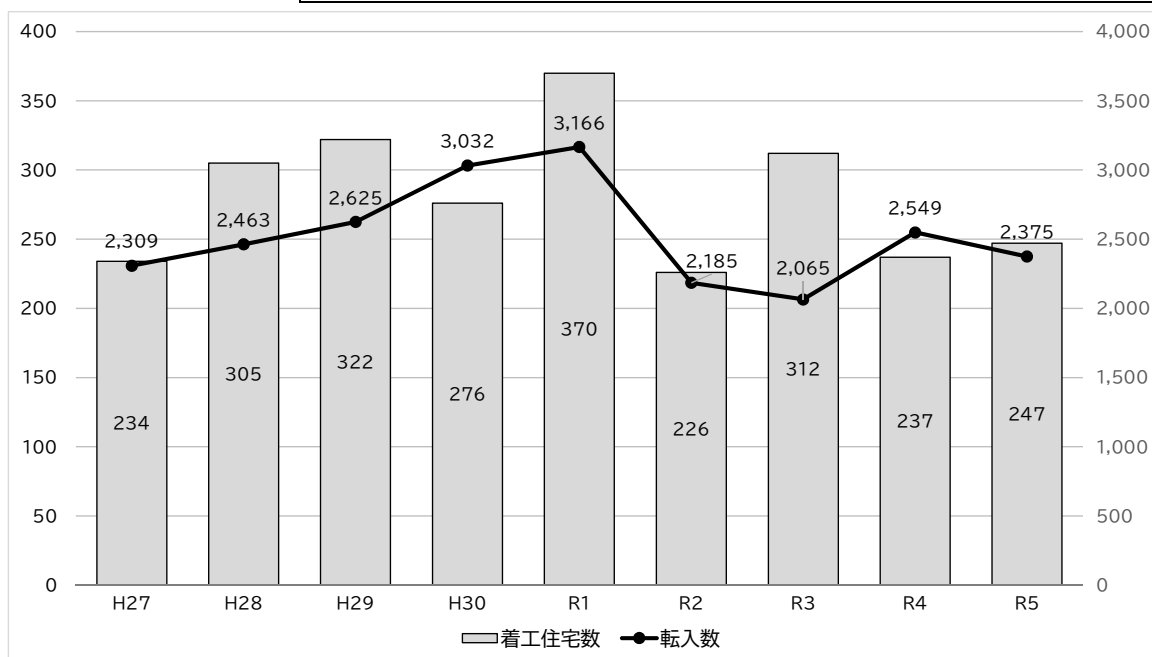


本市からの主要な転出先（外国人）は、国外が多くを占めるほか、県内近隣市への転入が一定程度を占める状態で推移しています。

■着工住宅数（総計）と転入数

（戸・件／人）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
転入数	2,566	2,445	2,309	2,463	2,625	3,032	3,166	2,185	2,065	2,549	2,375
着工住宅数	335	279	234	305	322	276	370	226	312	237	247
平均281戸・件											



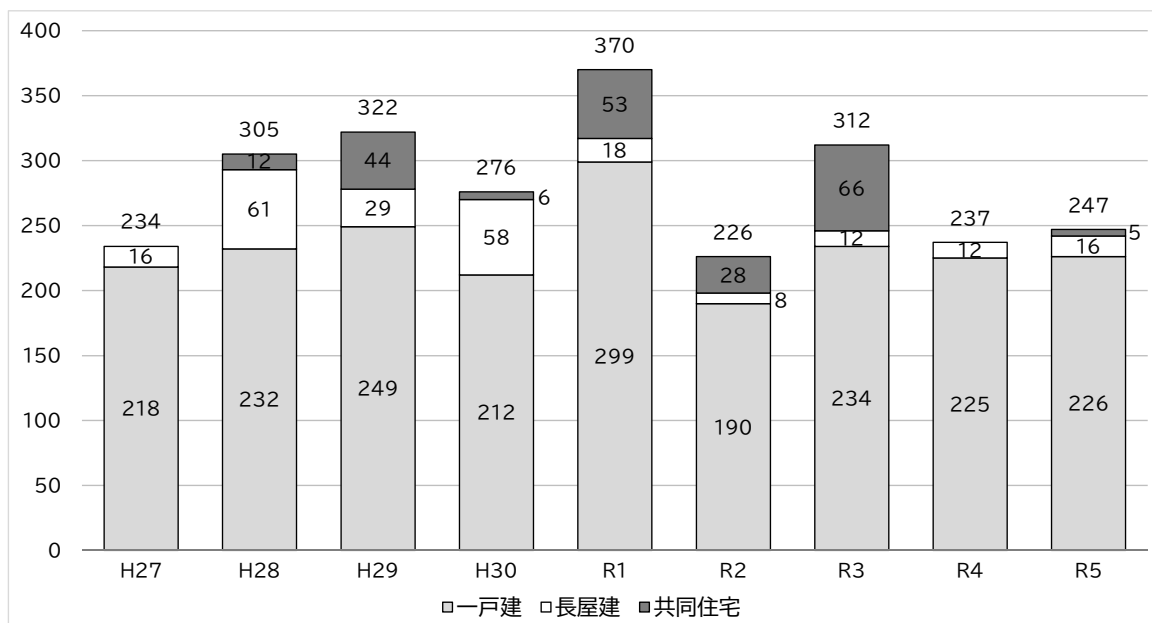
本市の住宅着工数は、年度によるばらつきはあるものの、平成27年度以降でみると、年間平均着工数は281戸となっています。

■着工住宅数（総計）

（戸・件）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
総計	335	279	234	305	322	276	370	226	312	237	247
一戸建	301	233	218	232	249	212	299	190	234	225	226
長屋建	34	26	16	61	29	58	18	8	12	12	16
共同住宅	0	20	0	12	44	6	53	28	66	0	5

出典：住宅着工統計（年度次）



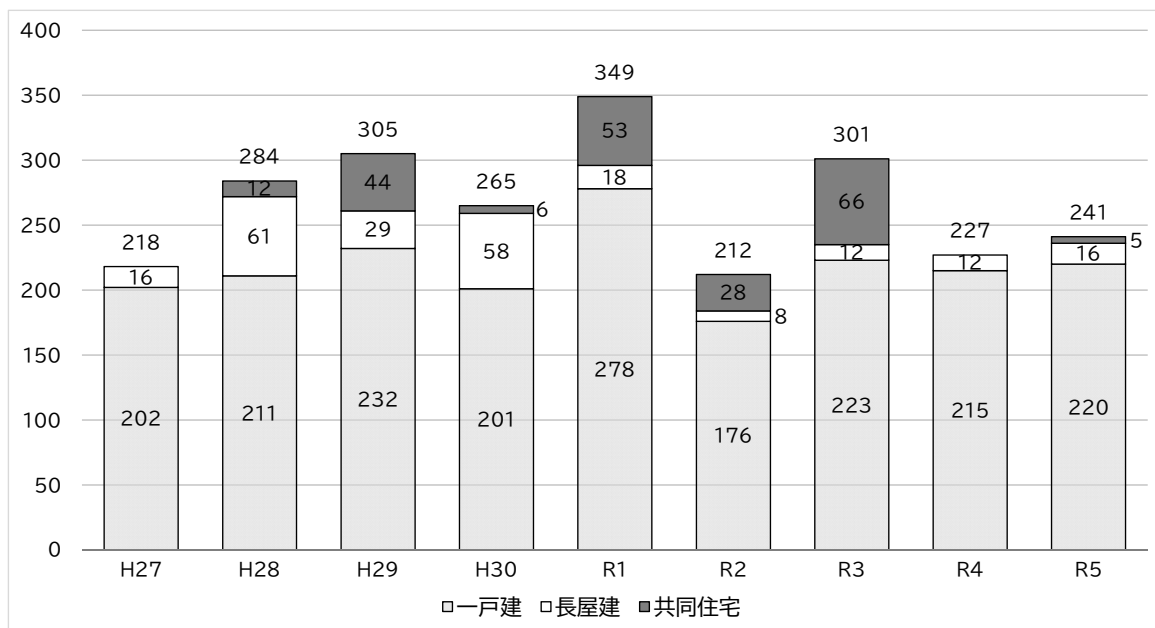
本市の住宅着工数は、一戸建てが多くを占めています。長屋建・共同住宅については、年度による着工数にはばらつきがみられるとともに、令和4年度以降は共同住宅の着工数が大きく減少しています。

■着工住宅数（新設）

（戸・件）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
総計	296	260	218	284	305	265	349	212	301	227	241
一戸建	262	214	202	211	232	201	278	176	223	215	220
長屋建	34	26	16	61	29	58	18	8	12	12	16
共同住宅	0	20	0	12	44	6	53	28	66	0	5

出典：住宅着工統計（年度次）

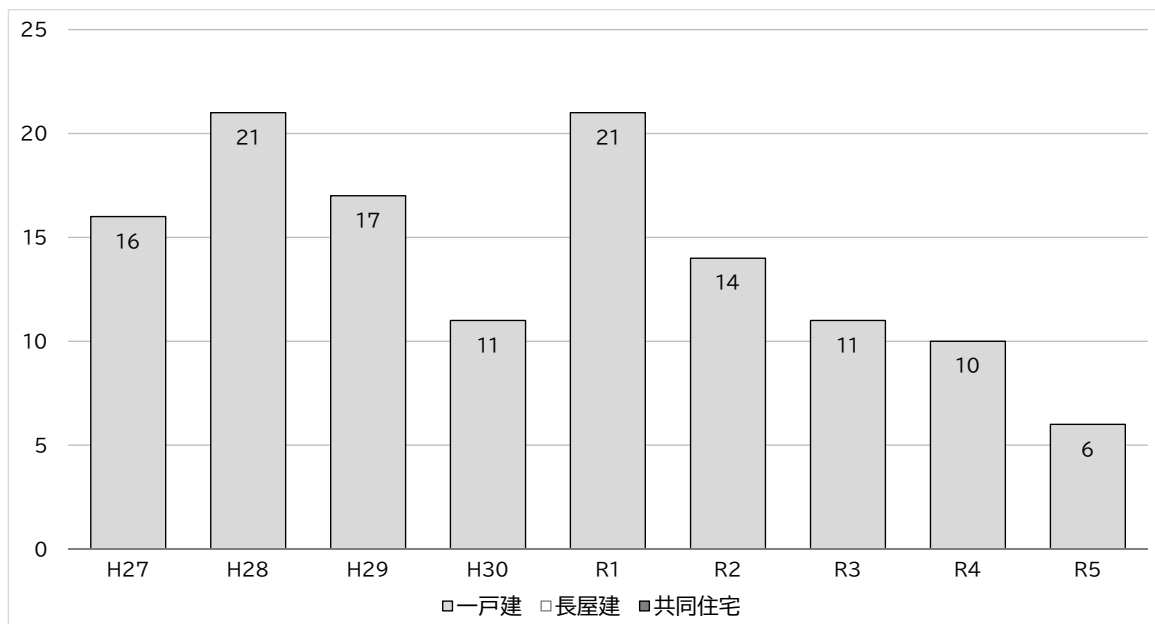


■着工住宅数（増改築）

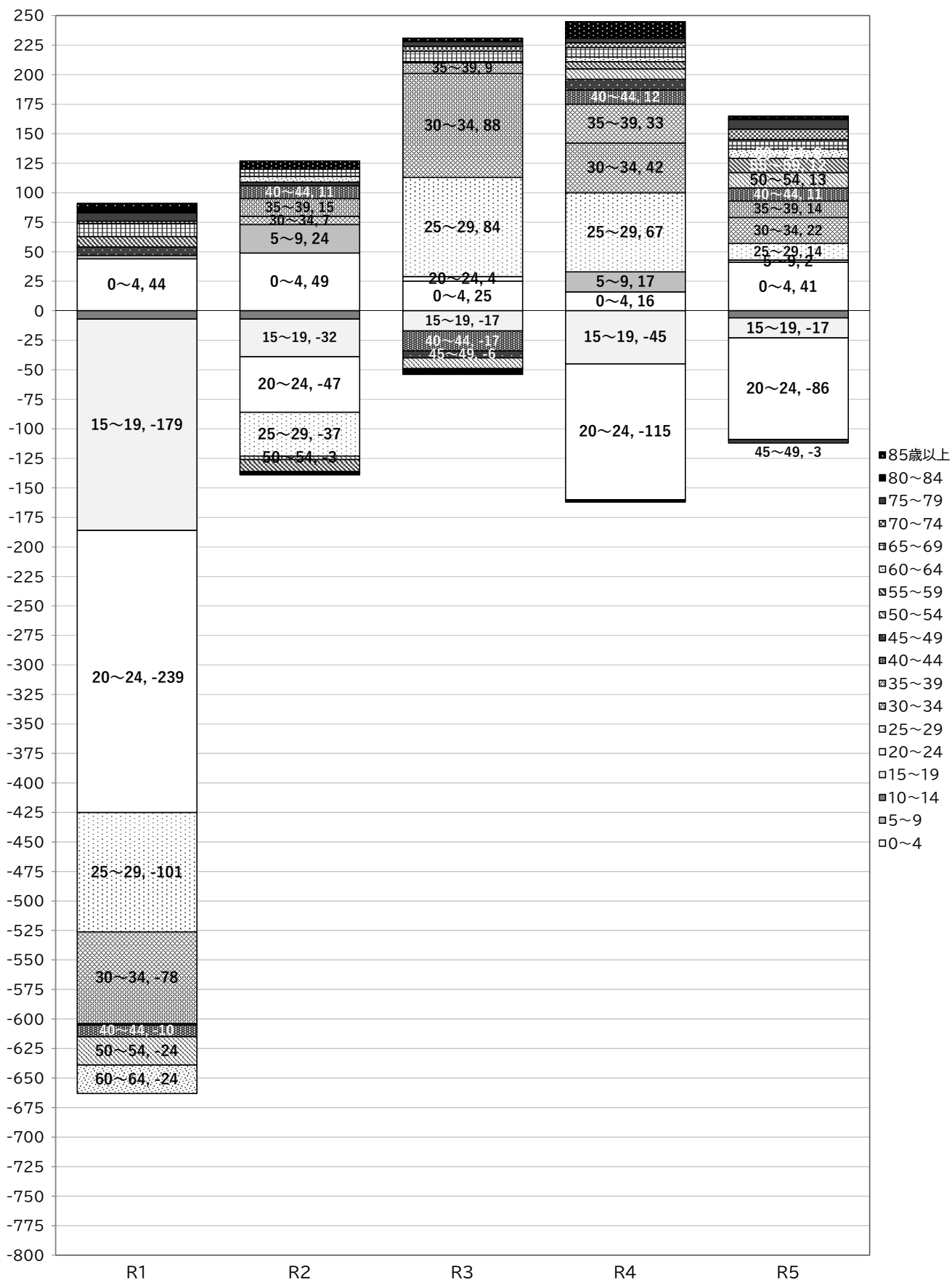
（戸・件）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
総計	39	19	16	21	17	11	21	14	11	10	6
一戸建	39	19	16	21	17	11	21	14	11	10	6
長屋建	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
共同住宅	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

出典：住宅着工統計（年度次）

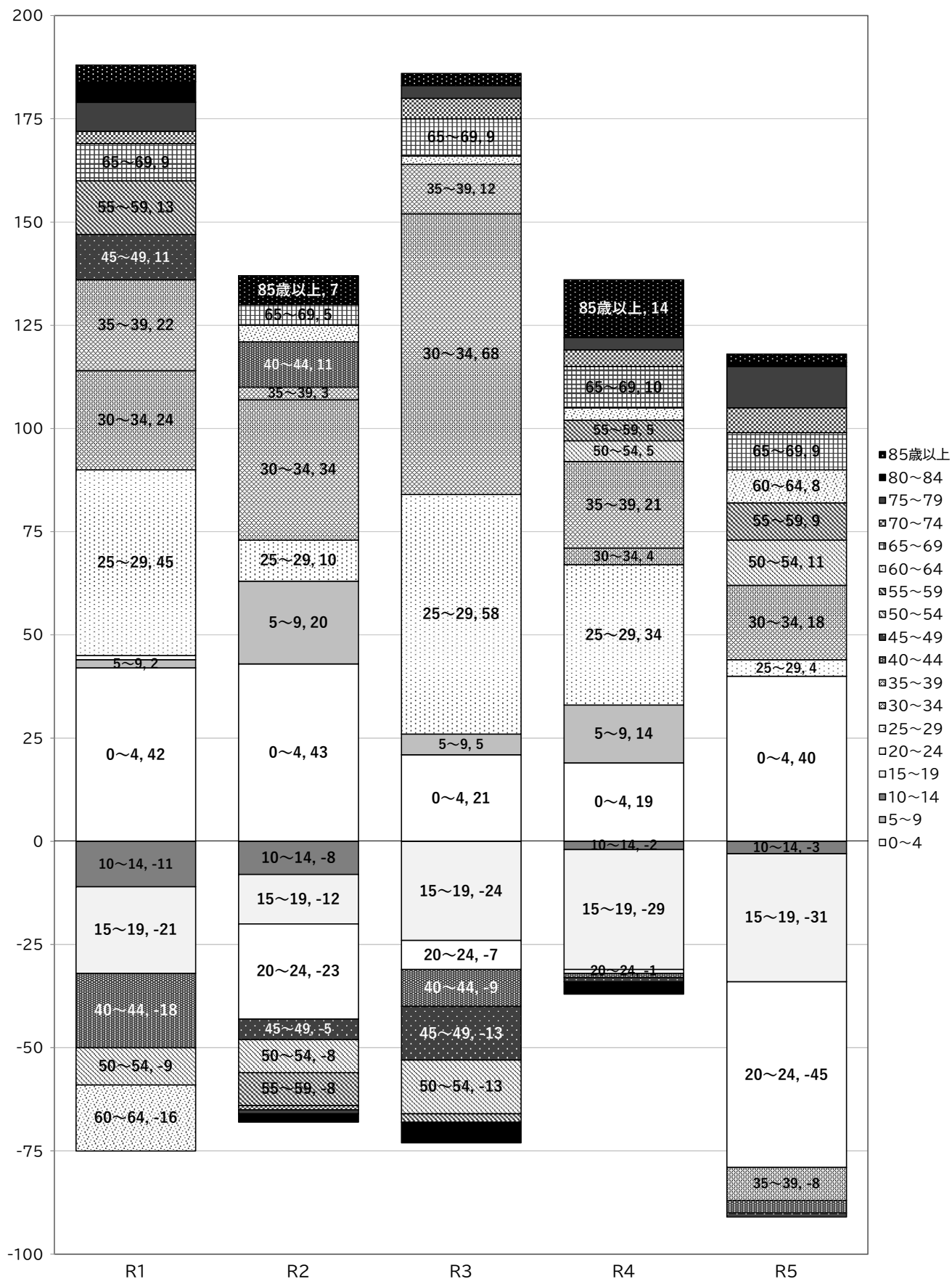


■年齢階級別の人口移動の推移（総数）



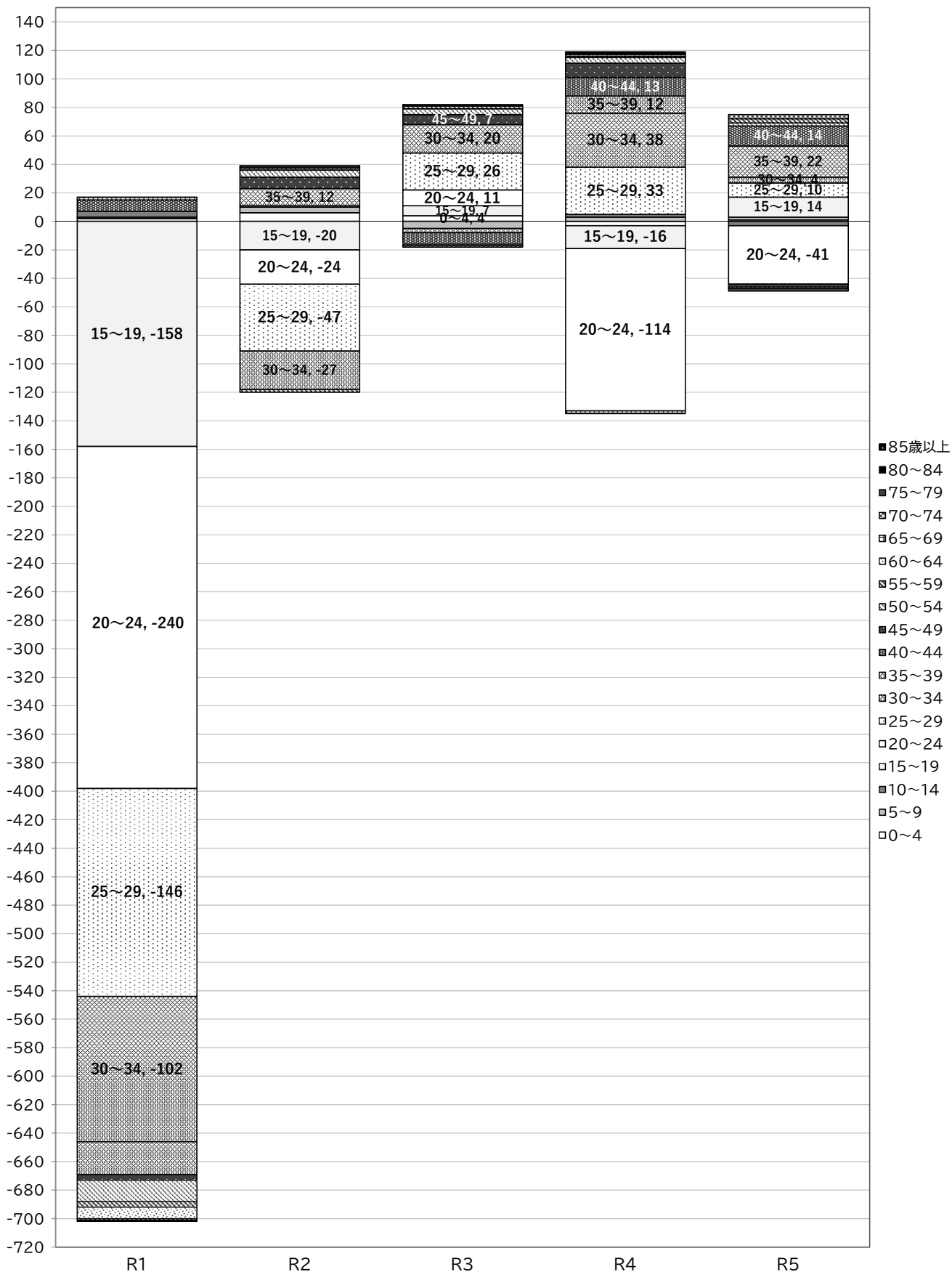
本市の年齢階級別の人口移動は、就職や大学等への進学を迎える15歳～19歳・20歳～24歳において転出超過が大きくなっている一方で、25歳～29歳・30歳～34歳においては転入超過となっており、0歳～4歳、5歳～9歳もやや増加しており、就職・進学等で一旦地元を離れるものの、子育て世代となって帰って来ているものと推察でき、人口減少を抑制するためにも、こうした若者の還流を促進していくことが必要となります。

■年齢階級別の人口移動の推移（日本人）



年齢階級別の人口移動を日本人に限定してみると、就職や大学等への進学を迎える15歳～19歳の世代は、毎年転出超過が続いている一方で、25歳～34歳の世代では転入超過が続いています。また、0歳～4歳の世代も転入超過が続いており、子育て世帯の転入が続いているものと推察されます。こうしたことから、人口減少を抑制するためには、子育て世代の流入を一層促進するとともに、若者世代の定着に向けた取組を展開していく必要があります。

■年齢階級別の人口移動の推移（外国人）



年階級別の人口移動を外国人に限定してみると、令和元年度においては、若い世代を中心に転出超過となるなど、年度によって転入出数にばらつきがみられます。外国人の転入出については、社会経済情勢の影響を大きく受けることから、不安定な国際情勢が続く中、その動向を注視していく必要があります。

